

総会報告

第5回定時総会報告

日 時：平成27年3月20日(金) 13時00分～14時30分

会 場：本郷瀬川ビル（東京都文京区本郷2-35-10）

出席代議員数：54名（内委任状34名）

（代議員数総数：56名、総会成立の定数29名以上）

議 案：

- | | |
|----------------|---------|
| (1) 平成26年度事業報告 | 【第1号議案】 |
| (2) 平成26年度決算報告 | 【第2号議案】 |
| (3) 平成27年度事業計画 | 【報告資料1】 |
| (4) 平成27年度予算計画 | 【報告資料2】 |
| (5) 平成27年度役員の件 | 【第3号議案】 |

議 事：

午後1時00分、定款第15号に基づき小平紀生会長が議長となり、出席者が定款17条に定める定足数に達しているとの旨報告の上、第5回定時総会の開会を宣した。

次いで、以下の各議案について提案および詳細な説明があり、逐次審議を行った結果、いずれも原案どおり異議なく可決された。

各議案の内容は以下のとおり。

【第1号議案】

平成26年度 事業報告

（自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日）

I. シンポジウム（継続事業1）[担当：事業理事]

1. ロボット教育セミナー

- (1) ロボット教育セミナー「からくり工作教室」
- (A) 期 日：7月26日(土) 東芝科学館
 対 象：小学校4～6年生 参加無料
 講 師：半屋春光（からくり人形師）
 内 容：からくり人形の実演を交えた解説、東芝科学館の見学の後、参加者によるからくりの製作と発表
 参加者：39名
- (B) 期 日：8月11日(月) 石川県金沢港大野からくり記念館
 対 象：小学校4～6年生 参加無料
 講 師：半屋春光（からくり人形師）
 内 容：からくり人形の実演を交えた解説、参加者によるからくりの製作と発表
 参加者：15名

2. 学術講演会

- (1) オープンフォーラム（市民向け企画 聴講無料）を11セッション開催した。
- ・RSNPを用いたロボットサービスコンテスト2014
 - ・製造業向けロボットの技術イノベーション
 - ・学会活動上の法令遵守と活動倫理再考 ～RSJにおける著作権・輸出管理・倫理を考える～
 - ・災害対応ロボットの社会実装
 - ・日本ロボット学会論文誌（和文誌）の改革 ～査読方針、査読手順～
 - ・我が企業のRobotセッション ～学生へ向けての会社情報～
 - ・学生と企業のための交流サロン
 - ・ヤングロボットセッション
 - ・ロボスクエア ロボットパフォーマンスショー・ふれあい体験コーナー
 - ・Turtlebot2でロボカップ@ホームに挑戦しよう！

・目の見えない子どもも参加できる小中学生向けロボットプログラミング教室

II. 学会誌（継続事業2）[担当：学会誌理事]

学会誌第32巻1号～10号を発行し、会員に配布した。各号の特集テーマは次のとおりである。

- | | | |
|---------|------|------------------------|
| 第32巻1号 | 震災対応 | レスキューロボットの活動を振り返って I |
| 第32巻2号 | 震災対応 | レスキューロボットの活動を振り返って II |
| 第32巻3号 | | 知能化する家電 |
| 第32巻4号 | | 原点としての機巧 |
| 第32巻5号 | | 探査ローバ開発の今と新しい試み |
| 第32巻6号 | | ロボット工学における最適手法 |
| 第32巻7号 | | 第31回日本ロボット学会学術講演会論文特集号 |
| 第32巻8号 | | 懐に入り込むロボット技術 |
| 第32巻9号 | | 高速ビジョンと応用展開 |
| 第32巻10号 | | ヒューマンモデリングアンドエンハンスメント |

今年度も、災害対応レスキューロボット、家電、機構、探査ローバ、最適化、ビジョン、人間理解など、多方面にわたり魅力的な企画を会員に提供できた。特に、第32巻1号、第32巻2号の連続企画「震災対応レスキューロボットの活動を振り返って」では、研究者のみならず現場目線の解説も織り込まれ、充実した企画内容となった。今年度8月目を迎えた学術講演会論文特集号は、普段投稿が少ない研究分野からの論文投稿も促すことで、様々な分野からの質の高い論文が掲載されるなど、ロボット学を活性化する重要な役割を担っている。今回は、首都大学東京で開催された第31回学術講演会での講演論文から、新しいコンセプトの提案、優れた学術成果、有用な技術に対し、169件の論文投稿を推薦し24件の投稿を得て、査読結果に基づき最終的に9件の論文を掲載した。本年度は、投稿数、採択数が少なかったことから、第32巻7号のみが学術講演会論文特集号として発行された。

論文投稿の減少改善策として今年度より新たな査読システムの改革がScholarOne Manuscripts™の導入とともに行われた。今年の学術講演会では、「日本ロボット学会論文誌（和文誌）の改革 ～査読方針、査読手順～」と題してオープンフォーラムを開催し、新しい査読システムの改革の説明と和文誌の今後について有意義な議論を行った。今後、この改革が投稿数の増加や採択率の増加につながったかどうかについて慎重に検討を行っていく。なお、ScholarOne Manuscripts™の導入により、査読委員や事務局の査読業務の簡素化が実現できた。

年間の論文投稿件数は123件（前年度106件）、判定結果は採録可50%（52%）、採録不可（再投稿を推薦）6%（33%）、採録不可44%（15%）であった。判定までの期間は平均109日、最短25日、最長236日（80日、38日、160日）で、掲載までの期間は平均301日（302日）であった。なお、評価点項目別の採択率は、学術性31%、新規性3%、有用性31%、提案性35%となっている。

一般記事に関しては、ロボティクス関連の学会への参加報告、ロボット関連のイベントの運営に関する記事、若手研究者の海外での研究生活に関する記事などを掲載した。学会および学会誌の広報普及活動として、ロボコンマガジンにロボット学会協力記事として中高生から一般向けにロボット研究・技術について紹介する記事を掲載しており、その執筆者を推薦した。ロボット工学の位置づけを一般の方々にもご理解いただくため、学術的な研究紹介とともに親近感を持てる成果や実用的な研究紹介を合わせて掲載されるようにした。

広告の年度集計結果に関しては、学術講演会での展示企業などへの広告勧誘活動などを実施したが、件数は一昨年度72件、昨年度62件から、今年度56件に減少が続いている。金額は3,361,384円であり、年度目標金額350万円に対して96.0%となり、目標に到達しなかったが、金額ベースで昨年（金額3,217,070円）と比較すると、若干ではあるが金額はアップしている。これまでの勧誘活動だけでなく、掲載広

告のコンプライアンスチェック体制を強化しつつ、新たな広告プランを模索し続けており、今後、広告出稿と論文投稿のインセンティブを連動させるなど、実験的なものを含めた施策を打っていく予定である。

III. 欧文誌(継続事業3) [担当: 欧文誌理事]

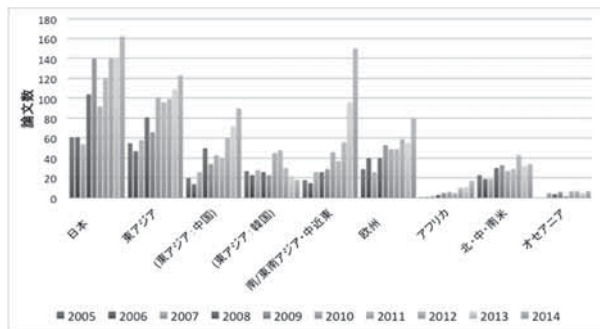
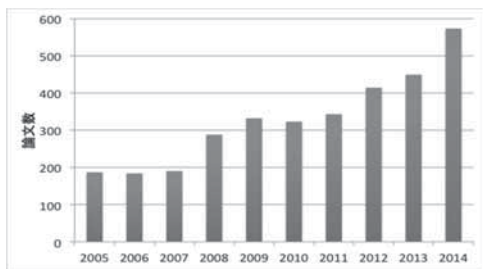
1. 欧文誌 (Advanced Robotics) 編集・発行

Vol. 28 を発行した。各号の詳細は以下のとおりである。

28/1	2014	Jan	Regular Issue (5 papers/62 pages/1-62)
28/2		Jan	Regular Issue (5 papers/70pages/63-132)
28/3		Feb	Regular Issue (6 papers/68pages/133-202)
28/4		Feb	Regular Issue (5 papers/65pages/203-267)
28/5		Mar	Biologically Inspired Robotics (1) (6 papers/79 pages/269-350)
28/6		Mar	Biologically Inspired Robotics (2) (6 papers/79 pages/351-430)
28/7		Apr	Cutting Edge of Robotics in Japan 2014 (11 papers/91 pages/431-532)
28/8		Apr	Regular Issue (3 papers/40 pages/533-572)
28/9		May	Regular Issue (6 papers/70 pages/573-645)
28/10		May	Regular Issue (6 papers/67 pages/647-714)
28/11		Jun	Biologically Inspired Robotics (3) (7 papers/88 pages/715-802)
28/12		Jun	Regular Issue (4 papers/52 pages/803-854)
28/13		Jul	Regular Issue (5 papers/58 pages/859-918)
28/14		Jul	Regular Issue (6 papers/75 pages/919-996)
28/15		Aug	Regular Issue (5 papers/56 pages/997-1053)
28/16		Aug	Regular Issue (6 papers/77 pages/1055-1132)
28/17		Sep	Regular Issue (5 papers/70 pages/1133-1203)
28/18		Sep	Regular Issue (5 papers/1204-1264)
28/19		Oct	Regular Issue (5 papers/1265-1329)
28/20		Oct	Regular Issue (5 papers/1331-1403)
28/21		Nov	Regular Issue (5 papers/1405-1474)
28/22		Nov	Regular Issue (5 papers/1475-1543)
28/23		Dec	Regular Issue (5 papers/70 pages/63-132)
28/24		Dec	Regular Issue (6 papers/68 pages/133-202)

2. 論文の投稿、査読の状況

平成 26 年 (2014 年) における年間論文投稿総数は 573 件 (新規投稿論文・378 件, 再投稿論文・195 件) であった (下表参照)。投稿論文の採択率は、31.31% であった。



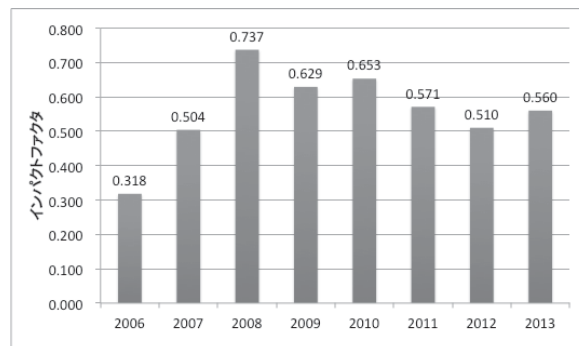
3. 企画 / 編集 / 発行作業

投稿論文数の増加を目指して、日本の優れた研究を世界に発信する

特集号「Cutting Edge of Robotics in Japan」企画し、学術講演会論文発表者への論文投稿を呼びかける活動を行った。

4. 国際学術誌としての認知度と評価の向上

Institute for Scientific Information (ISI) 社の Citation Index (インパクトファクタ) の推移を以下に示す。2010 年以降減少していたが、2013 年になりわずかながら増加した。今後も Taylor & Francis 社との連携を通して、インパクトの高い論文を増やし、このインパクトファクタの増加傾向を維持していく。



5. 共同事業者である Taylor & Francis 社との契約・交渉

以下のような契約内容の更新を行った。

2015 年 (Vol. 28) 年間発行数: 24 号

1. 会員全員の電子購読料金 26,664 ユーロ/年
2. RSJ へ支払われる編修料 15,000 ユーロ/年
3. プリント版 会員価格 400 ユーロ/Volume

採択された投稿論文は、掲載号発行前に Taylor and Francis により電子出版され、閲覧・引用が可能となっている。採択決定から電子出版までは、早ければ 1 ヶ月以内で対応可能である。2014 年は投稿から第 1 回目のディビジョンまでの平均日数は 85.86 日である。多くの投稿論文は 2 回目の査読で採録の可否が決まるため、投稿から最終ディビジョンまでの平均日数は 131.45 日となっている。

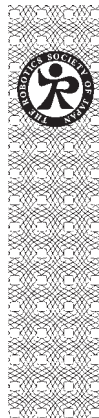
IV. 調査・研究 (継続事業 4) [担当: 企画理事]

1. 研究調査活動 (定款第 4 条 3 号)

前年度から継続して、以下の研究専門委員会活動を実施。

(1) 研究専門委員会

委員会名	委員長	発 足	継 続	種 別
開かれた知能研究専門委員会	下田真吾	2014 年 9 月	—	I 種
インテリジェントホームロボティクス研究専門委員会	岡田浩之	2014 年 8 月	—	II 種
生活創政支援ロボティクス研究専門委員会	小笠原司	2013 年 5 月	—	II 種
安心ロボティクス研究専門委員会	新井健生	2012 年 4 月	2014 年 4 月	I 種
データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012 年 4 月	2014 年 4 月	I 種
ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010 年 3 月	2014 年 3 月	I 種
RT 機能安全研究専門委員会	山田陽滋	2009 年 4 月	2013 年 4 月	I 種
関西ロボット系若手研究者ネットワーク研究専門委員会	池田篤俊	2009 年 4 月	2013 年 4 月	I 種
ヒューロビント研究専門委員会	松下光次郎	2009 年 4 月	2013 年 4 月	I 種



ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	山本元司	2008年4月	2014年4月	I種
北海道ロボット技術研究専門委員会	小林幸徳	2008年4月	2014年4月	I種
カー・ロボティクス研究専門委員会	内山 勝	2008年4月	2014年4月	I種
ロボティクスにおける空間の知能化及び構造化に関する研究専門委員会	新妻実保子	2007年1月	2013年1月	II種

なお、「ロボティクス・サイエンス研究専門委員会」(委員長:國吉康夫)は2014年3月末、「ロボット教育研究専門委員会」(委員長:琴坂信哉)は2014年7月末で、それぞれ終了とした。

(2) 調査研究委員会

委員会名	委員長	発 足
産学連携委員会	小平紀生	2013年5月
広域災害対応に関する技術基盤調査研究委員会	浅間 一	2013年1月
東日本大震災関連調査研究委員会	川村貞夫	2011年11月

(3) 技術・カテゴリ別委員会

委員会名	委員長	発 足
建設ロボット委員会	栗栖正充	2013年10月

V. 表彰(継続事業5) [担当:企画理事]

1. 表彰(定款第4条4号)

2014年9月第32回学術講演会において、学会誌論文賞4件、新設されたAdvanced Robotics Best Paper Awardを3件、実用化技術賞2件、研究奨励賞8件、ロボティクスシンポジウム研究奨励賞1件、ロボット活用社会貢献賞2件、功労賞1件の贈賞を行った。

【学会誌論文賞】

- 幾何学的運動拘束を利用した高速・高精度細胞マニピュレーション
(日本ロボット学会誌 第30巻 第6号, pp. 655-661)
福井 航(大阪大学), 金子 真(大阪大学), 川原知洋(名古屋大学・九州工業大学), 山西陽子(名古屋大学), 新井史人(名古屋大学・ソウル大学)
- コンプライアント-パラレルメカニズムを応用した高精度・広動作域位置決め装置
(日本ロボット学会誌 第30巻 第7号, pp. 735-743)
小塚裕明(名古屋工業大学), 荒田純平(名古屋工業大学), 奥田憲司(プラザ工業(株)), 翁長明範(プラザ工業(株)), 大野元嗣(プラザ工業(株)), 佐野明人(名古屋工業大学), 藤本英雄(名古屋工業大学)
- 大容量空気圧人工筋を用いた重量物ハンドリング用パワーアシスタムの開発
(日本ロボット学会誌 第31巻 第5号, pp. 497-507)
岡崎安直(パナソニック(株)), 小松真弓(パナソニック(株)), Stephen W. John(パナソニック(株)), 横山和夫(パナソニックエクセルスタッフ(株)), 浅井勝彦(パナソニック(株)), 山本正樹(パナソニック(株))
- 大規模な三次元環境地図とRGB-Dカメラを用いた移動ロボットの広域位置同定
(日本ロボット学会誌 第31巻 第9号, pp. 896-906)
鄭 龍振(九州大学), 倉爪 亮(九州大学), 岩下友美(九州大学), 長谷川勉(九州大学)

【Advanced Robotics Best Paper Award】

- Decentralized controllers for perimeter surveillance with teams of aerial robots
(Advanced Robotics, Vol. 27, No. 9, pp. 697-709)
Luciano C. A. Pimenta, Guilherme A. S. Pereira, Mateus M. Goncalves, Nathan Michael, Matthew Turpin, Vijay Kumar
- A real-time super-resolution robot audition system that improves the robustness of simultaneous speech recognition
(Advanced Robotics, Vol. 27, No. 12, pp. 933-945)
Keisuke Nakamura, Kazuhiro Nakadai, Hiroshi G. Okuno
- Study on Roller-Walker-Improvement of Locomotive Efficiency of Quadruped Robots by Passive Wheels
(Advanced Robotics, Vol. 26, No. 8-9, pp. 969-988)
Gen Endo, Shigeo Hirose

【実用化技術賞】

- ロボット聴覚プラットフォーム RASP
釜島 力, 高木健太郎, 川瀬宏和, 岡野理紗((株)システムインフロンティア)
- 放射線環境下における解体がれきの自律搬送システム
三浦 悟, 浜本研一, 黒沼 出, 大塩 真, 片村立太(鹿島建設(株)), 加賀美聡, Simon Thompson((独)産業技術総合研究所)

【研究奨励賞】

- 安藤 健(パナソニック(株))
5節リンク機構により洗浄性を向上させたヘッドケアロボットの開発
第31回学術講演会/3C2-03
- 嶋田直矢(東京大学)
光駆動マイクロロボットを用いた単一顕微鏡平面像からの3次元細胞機械特性計測
第31回学術講演会/1F1-03
- 下野誠通(横浜国立大学)
円弧型シャフトモータのロバストモーションコントロール
第31回学術講演会/1N2-01
- 竹村憲太郎(東海大学)
角膜表面反射画像と環境画像を併用したキャリブレーションフリー視線計測手法
第31回学術講演会/1E1-04
- 田中淳也((株)東芝)
小型ガススプリングを利用した把持機構の研究開発
第31回学術講演会/2E2-03
- 福井 類(東京大学)
装着型手首凹凸計測デバイスによる回内角度変化を許容する手形状識別
第31回学術講演会/1E1-01
- 福島俊彦(東京大学)
棒高跳びロボットのボール曲げ動作による跳躍高さ向上
第31回学術講演会/2F2-08
- 本堂貴敏(東京農工大学)
時間反転積分法と終端状態最適化に基づく多関節投擲運動における制御入力計画法
第31回学術講演会/2I1-03

【ロボティクスシンポジウム研究奨励賞】

- 戸森央貴(中央大学)
空気圧ゴム人工筋肉マニピュレータによる瞬発力のための可変インピーダンス制御
第19回ロボティクスシンポジウム/5A3

【ロボット活用社会貢献賞】

- 山海嘉之(筑波大学)
ロボットスーツ HAL の開発および福祉ロボットビジネスへの展開に対する貢献
- 柴田崇徳((独)産業技術総合研究所)
セラピーロボット“パロ”の開発とその普及に対する貢献

【功労賞】

- (1) 大槻真嗣 ((独) 宇宙航空研究開発機構)
ロボット工学セミナーにおける遠隔セミナーの設立と推進

VI. 国際(継続事業6) [担当: 国際理事]

1. 国際委員会活動

国際委員会は、日本のロボット研究の国際的優位性を基盤にして日本ロボット学会の国際的な存在感と地位を確立することを目的とし、このための戦略を策定し実施するための委員会として活動している。今年度もこれまでの活動を継続し、

- ・国内の外国人研究者向けの研究発表の機会提供サービス、
- ・国際会議を通しての学会の国際化に向けた取り組み、
- ・Asian Robotics Society Union (ARSU) をベースとしたアジア圏でのロボット系学会間の協体制の活性化

の三つを柱に活動を行った。

2. 第32回日本ロボット学会学術講演会における国際セッションの実施

9月4日～6日に九州産業大学にて開催された第32回日本ロボット学会学術講演会において、例年どおりセッションの司会、発表、質疑応答のすべてが英語で行われる「国際セッション」を設けた。発表者には日本に滞在する留学生・研究者が多く含まれ、日本ロボット学会がこのような外国人に研究発表の機会を提供することは、外国人会員に対する有益なサービスであるとともに、日本ロボット学会を外国の人々に知ってもらうための貴重な機会である。また日本の若手研究者にとって、国際学会で発表する前の練習としても利用されており、こういった場を提供する意義は大きい。なお、今年度より、国際セッション参加者にも通常の参加登録費を求めることとなった。ただし、会員でなくとも登壇することを認めている。

今年度の第32回日本ロボット学会学術講演会においては、以下の四つのセッションがオーガナイズされ、計27件の論文発表があった。件数は昨年度より微増であり、有料化による顕著な影響は見られなかった。

- ・Assistive Robotics 11件
- ・Human understanding using Humanoid Robotics 4件
- ・Robot Vision and Software 6件
- ・Robot Design and Control 6件

3. 国際交流活動

IROS2014の会期中に開催された第9回アジアロボット学会連合サミットミーティング(9th Asian Robotics Society Union Summit Meeting)に参加した。これはアジア+オセアニアのロボット系学会の会長が年に1度集まって情報交換する場であり、今回は韓国KROSがホストとなった。

日 時: 2014年9月16日 11:45～13:30 (IROS2014 期間中)

場 所: IROS2014 会場内会議室

参 加 者:

[ARAA] (Australia and New Zealand)

- ・Bruce MacDonald, University of Auckland, New Zealand (New Zealand Representative of ARAA)

[KROS] (Korea)

- ・Jae-Bok Song, Korea University (President of KROS)
- ・Chul-Goo Kang, Konkuk University (President-Elect of KROS)
- ・Jaeheung Park, Seoul National University (Director of KROS)

[RSJ] (Japan)

- ・Hisashi Osumi, Chuo University, Vice President of RSJ
- ・Yusuke Maeda, Yokohama National University (Director of RSJ)
- ・Shinichi Hirai, Ritsumeikan University (Director of RSJ)

[TCR, CAA] (China)

- ・Fang Xu, Shenyang SIASUN Robot&Automation Co. (Delegate of TCR Chair)

[RST] (Taiwan)

- ・Ren Luo, National Taiwan University (Honorary President of RST)
- ・Li-Chen Fu, National Taiwan University (BoG member of RST)

主な議題:

- (1) 台湾RST (Robotics Society of Taiwan) を新メンバーとして迎

えることを了承

- (2) ARSU ホームページについて、各学会からのリクエストに基づきRSJが更新していくことを確認

- (3) 次回:IROS2015 期間中(2015年9月28日～10月3日)、RSJがホスト予定

4. 国際会議への対応

RSJが共催となっているRO-MANとIROSに対し、以下のような活動を行った。

- (1) 23rd IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication (RO-MAN 2014)

期間: 2014年8月25日～29日、会場: Heriot-Watt University (エディンバラ)

8月28日18:30～20:30にステアリング会議が開催され、会長の代理で国際担当理事1名が出席し、スポンサー学会の体制や今後の開催計画などを確認した。また、韓国KROSと共同で新たにRSJ/KROS Distinguished Interdisciplinary Research Awardの贈賞を開始した。

- (2) 2014 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2014)

期間: 2014年9月14日～18日、会場 Palmer House Hilton (シカゴ)

9月14日11:30～16:30にIROS Advisory/Steering Committee Meetingが開催され、副会長1名、国際担当理事1名が参加し、今後の開催体制や開催計画などを確認した。また、9月15日12:45～13:15に、産業界から学術界への技術・商品アピールの場としてのランチ企画「RSJ Power Lunch」を開催し、計9社からの講演に130名ほどが参加した。

5. 情報発信、その他

ARSU ホームページ (<http://www.asian-robotics.org/>) のコンテンツの更新。

6. 国際会議共催/協賛

共催となっているRO-MANおよびIROSを含め、本会に関連する国際会議を共催(2件)、協賛(13件)、後援(3件)した(2014年1月～12月31日審査分)。

VII. 学術講演会(その他事業1) [担当: 事業理事]

1. 学術講演会

- (1) 第32回学術講演会

期 日: 2014年9月4日(木)～6日(土)

会 場: 九州産業大学

組 織: 実行委員長: 倉爪 亮 (九州大学)

プログラム委員長: 榊 泰輔 (九州産業大学)

発表件数: 98セッション 609件

一般セッション 27テーマ 43セッション 309件

オーガナイズドセッション 31テーマ 50セッション 273件

国際セッション 4テーマ 5セッション 27件

オープンフォーラム: 11セッション

特別講演 講師: 橋爪 誠氏 (九州大学大学院医学研究院
先端医療医学講座 教授)

タイトル: 「手術支援ロボット開発の現状」

参加者数: 1,140名

正会員(事前): 492名

学生会員(事前): 383名

非会員(事前): 19名

学生非会員(事前): 33名

正会員(当日): 103名

学生会員(当日): 12名

優待券利用の賛助会員(当日): 28名

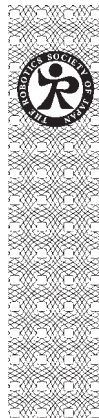
非会員(当日): 44名

学生非会員(当日): 13名

無料招待者: 13名

懇親会: 565名

一般・有料(事前): 264名



学生・有料(事前): 154名
 一般・有料(当日): 78名
 学生・有料(当日): 23名
 無料招待者(受賞者等): 46名

Ⅷ. 講習会(その他事業2) [担当: 事業理事]

1. ロボット工学セミナー

- ・第83回より遠隔セミナーを正式に実施した。抽選で20組、受講料を3,000円とした。
- ・参加費を下記のとおり改定した。

正会員 8,400円 → 8,500円
 会員外 12,600円 → 13,000円
 学 生 4,200円 → 4,500円
 賛助会員(優待券あり) 4,200円 → 4,500円
 賛助会員(優待券なし) 12,600円 → 13,000円

- (1) 第83回セミナー「ロボットに使える実用画像処理」(実機デモを実施)

期日: 2014年5月23日(金) 東京大学

講師: 鷺見和彦(青山学院大学), 篠原雄介(東芝), 小林貴訓(埼玉大学), 友納正裕(千葉工業大学), 波部 斉(近畿大学)

オーガナイザー: 小林貴訓(埼玉大学)

参加者: 162名(会員: 28名, 学生: 62名, 会員外: 26名, 賛助招待: 21名, 賛助優待: 4名, 遠隔: 21名)

- (2) 第84回セミナー「ロボットの作り方2014～移動ロボットプラットフォームの製作と走行制御～」

期日: 2014年6月21日(土), 22日(日)電気通信大学

講師: 城間直司(茨城大学), 富沢哲雄(電気通信大学), 渡辺敦志(ATR), 油田信一(芝浦工業大学)

オーガナイザー: 城間直司(茨城大学), 富沢哲雄(電気通信大学)

参加者: 18組34名(会員: 8名, 学生: 21名, 会員外: 5名)

- (3) 第85回セミナー「ヒトの機能と美をデザインする」

期日: 2014年7月3日(木)東京藝術大学

講師: 北郷 悟(東京藝術大学), 多田充徳, 遠藤 維(産業技術総合研究所), 遠藤 謙(SONY CSL), 山中俊治(東京大学)

オーガナイザー: 村井昭彦(東京大学)

参加者: 33名(会員: 10名, 学生: 8名, 会員外: 6名, 賛助招待: 2名, 遠隔: 7名)

- (4) 第86回セミナー「極限環境で活かされるロボット技術とその実用化」

期日: 2014年9月12日(金)中央大学

講師: 巻 俊宏(東京大学), 福島E.文彦(東京工業大学), 黒田洋司(明治大学), 永谷圭司(東北大学), 伊豆智幸((株)エンルート), 上田敦史(JAXA)

オーガナイザー: 石上玄也(慶應義塾大学)

参加者: 32名(会員: 7名, 学生: 10名, 会員外: 2名, 賛助招待: 3名, 賛助優待: 1名, 遠隔: 9名)

- (5) 第87回セミナー「医療機器としてのロボットの実用化と事業化」

期日: 2014年10月8日(水)中央大学

講師: 岡本 淳(東京女子医科大学), 後藤哲哉(信州大学), 鷺尾利克(産業技術総合研究所), 鎮西清行(産業技術総合研究所), 佐久間一郎(東京大学)

オーガナイザー: 中村亮一(千葉大学)

参加者: 55名(会員: 16名, 学生: 3名, 会員外: 17名, 賛助招待: 4名, 賛助優待: 6名, 遠隔: 9名)

- (6) 第88回セミナー「自動運転・運転支援実用化の取り組み・法整備の動向」

期日: 2014年10月31日(金)中央大学

講師: 安藤敏之(日産自動車(株)), 菅沼直樹(金沢大学), 竹内栄二郎(名古屋大学), 服部義和((株)豊田中央研究所), 柴田英司(富士重工業(株)), 南部朋子(弁護士法人リバーシティ法律事務所)

オーガナイザー: 松本高斉(日立製作所)

参加者: 78名(会員: 24名, 学生: 5名, 会員外: 20名, 賛助招待: 14名, 賛助優待: 7名, 遠隔: 8名)

- (7) 第89回セミナー「ロボットベンチャー企業の最前線」

期日: 2014年11月7日(金)大阪産業創造館

講師: 瀬川友史((株)三菱総合研究所), 山崎文敬((株)イクシスリサーチ), 小柳栄次((株)移動ロボット研究所), 三宅 徹((株)未来機械), 森 政雄(リーフ(株))

オーガナイザー: 松下光次郎(大阪大学(現: 岐阜大学))

参加者: 19名(会員: 3名, 学生: 2名, 会員外: 7名, 賛助招待: 6名, 遠隔: 1名)

※のべ参加者: 413名

(会員: 96名, 学生: 111名, 会員外: 83名, 賛助招待: 50名, 賛助優待: 18名, 有料遠隔参加: 55名)

2. 共催事業

本会に関連する国内行事(講演会, シンポジウム, 講習会, 展示会, コンテスト等)の共催・協賛・後援について審査を行った。

共催7件, 協賛76件, 後援12件, その他4件(2014年1月～12月31日審査分)

主な国内共催事業:

- (1) 第19回ロボティクスシンポジウム

期日: 2014年3月13日(木), 14日(金)

会場: 有馬グランドホテル

実行委員長: 中後大輔(関西学院大学)

プログラム委員長: 中村太郎(中央大), 和田正義(東京農工大)

- (2) ロボカップジャパンオープン2014

期日: 2014年5月4日(日)～6日(火)

会場: 九州工業大学, 新潟工科大学, 北九州学術研究都市体育館

主催: ロボカップ日本委員会

- (3) フォーラム「カー・ロボティクス自動運転の社会導入に向けての課題と展開」

期日: 2014年5月21日(水)

会場: パシフィコ横浜(神奈川県)

企画: カー・ロボティクス調査研究委員会(自動車技術会・日本ロボット学会)

- (4) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル2014

期日: 2014年6月14日(土), 15日(日)

会場: 仙台市科学館(宮城県)

主催: ロボット競技会実行委員会

- (5) 第14回レスキューロボットコンテスト

期日: 2014年8月9日(土), 10日(日)

会場: デザイン・クリエイティブセンター神戸(兵庫県)

主催: レスキューロボットコンテスト実行委員会, 神戸市

- (6) 第14回建設ロボットシンポジウム(14th SCR)

期日: 2014年8月28日(木)

会場: 中央大学 後樂園キャンパス

主催: 土木学会, 日本建築学会, 日本ロボット学会, 先端建設技術センター, 日本建設機械化協会, 日本ロボット工業会

- (7) RSNP コンテスト

期日: 2014年9月4日(木)～6日(土)

会場: 九州産業大学

主催: ロボットサービスイニシアチブ(RSi)

- (8) つくばチャレンジ2014

期日: 2014年11月16日(日)(本走行)

会場: つくばエクスプレス線つくば駅近辺公道

主催: つくば市, つくばチャレンジ実行委員会

Ⅸ. 法人処理 [担当: 庶務理事]

1. 会員状況

	平成26年12月31日 現在	平成25年12月31日 現在	増 減
名誉会員	10名	11名	1名減
正会員	2,908名	2,904名	4名増

学生会員	1,108名	1,117名	9名減
終身会員	70名	60名	10名増
賛助会員	68団体(94口)	60団体(86口)	8団体(8口)増

2. 総会

(1) 第4回定時総会

会期：平成26年3月20日(木)

会場：本郷瀬川ビル

出席代議員数：48名（うち委任状提出：32名）（代議員総数：55名，総会成立の定数28名以上，議題の可決に必要な出席代議員数37名以上）

議題：平成25年度の事業報告・決算報告，平成26年度の事業計画・予算計画，平成26年度役員の選任
上記について審議し，議決した。

3. 委員会

下記の委員会を開催した。

委員会名	委員長 (1月～3月)	委員長 (3月～12月)
会誌編集委員会	松野文俊	田中一男
欧文誌委員会	新井史人	尾形哲也
事業計画委員会	吉田英一	尾崎功一
国際委員会	長谷川泰久	前田雄介
研究協議会	大隅 久	大隅 久
第32回学術講演会実行委員会	倉爪 亮	倉爪 亮
表彰委員会	高西淳夫	高西淳夫
第28回学会誌論文賞選考小委員会	大隅 久	大隅 久
第2回 Advanced Robotics Best Paper Award 選考小委員会	大隅 久	大隅 久
第19回実用化技術賞選考小委員会	高西淳夫	高西淳夫
第7回功労賞選考小委員会	高西淳夫	高西淳夫
第6回ロボット活用社会貢献賞選考小委員会	大隅 久	大隅 久
第29回研究奨励賞選考小委員会	高西淳夫	高西淳夫
第4回ロボティクスシンポジウム研究奨励賞選考小委員会	高西淳夫	高西淳夫
外部表彰選考小委員会	大隅 久	大隅 久
体制整備委員会	小平紀生	小平紀生
アドバイザーボード	小平紀生	小平紀生
次世代構想委員会	原田達也	水内郁夫
会員5000名拡大計画委員会	高西淳夫	高西淳夫
コンプライアンス委員会	小平紀生	小平紀生
情報システム管理委員会	高西淳夫	高西淳夫
学術講演会管理推進委員会	大隅 久	大隅 久
学会発行誌構想検討委員会	高西淳夫	高西淳夫
情報発信企画委員会	大隅 久	大隅 久
ロボット研究開発アーカイブ実行委員会	高西淳夫	高西淳夫

4. 役員の選出

平成26年度の理事・監事を選出した。

5. 運営報告会，理事会

(1) 平成26年9月4日(水)に運営報告会を開催し，会務報告を行った。

(2) 平成26年度中に10回理事会を開催し，会務の審理と処理を行った。

6. フェロー，名誉会員の選任

8名のフェローを選任した。

7. 学会の基盤強化

各所轄委員会にて，会員の拡大，論文発表の活性化を目指し，広報

活動，産業貢献・異業種連携活動の強化，学会誌の充実を通して，学会の知名度向上をはかった。また，非専門家が入会しやすいしくみの構築や認知活動，高齢者層会員，学生会員が会員継続したくなる価値の創出若年層への啓発活動を継続実施した。

8. 学会サービスの向上

ロボット研究開発アーカイブ「日本のロボット研究開発の歩み」を完成し公開した。また，情報発信企画委員会にて，学会ホームページのコンテンツの充実，情報サービスの拡大を進め，会員サービスの質の向上を図るとともに，学会の社会的価値の向上を図った。

9. 規約等の制定・整備

コンプライアンス委員会にて，論文・解説記事等の著作権譲渡を廃止する方針とし，著作権の大幅改訂を行い，さらに会員啓発のための著作権HPを公開した。また，学会倫理綱領を制作し公開した。体制整備委員会を中心に，理事会運営や委員会の活動明確化，学会運営の基本などについて見直しを行い，委員会の新設・改廃を行うとともに，規程を作成した。

10. 将来検討

本年度は，特に活動なし。委員会の位置づけと委員構成再編成により4月より活動再開の予定。

11. 事務局運営

体制整備委員会の指導の下，中長期的な視点に立って事務局体制について検討・整備した。

12. 学会インフラの整備

Webサイト：RSJフォーラムの検討を開始した。

X. 事業報告に係る附属明細書 [担当：庶務理事]

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。



【第2号議案】

平成26年度決算報告

貸借対照表
平成26年12月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	201,762,590	184,433,116	17,329,474
現 金	5,027,155	6,746,592	△ 1,719,437
普通預金	56,138,532	38,573,871	17,564,661
振替口座	6,196,968	4,739,529	1,457,439
通常貯金	997,153	996,913	240
定期預金	133,402,782	133,376,211	26,571
未収会費	2,122,000	2,008,000	114,000
未収金	3,293,684	4,668,800	△ 1,375,116
前払金	551,749	628,029	△ 76,280
立替金	68,808	0	68,808
仮払金	4,832,667	9,112,064	△ 4,279,397
流動資産合計	212,631,498	200,850,009	11,781,489
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
退職給付引当資産	8,517,697	7,777,080	740,617
定期預金	21,000,000	21,000,000	0
特定財産合計	29,517,697	28,777,080	740,617
(2) その他固定資産			
電話加入権	153,100	153,100	0
敷 金	63,000	63,000	0
保証金	2,500,000	2,500,000	0
その他固定資産合計	2,716,100	2,716,100	0
固定資産合計	32,233,797	31,493,180	740,617
資産合計	244,865,295	232,343,189	12,522,106
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,896,829	2,076,552	△ 179,723
前受会費	22,984,000	22,952,000	32,000
預り金	432,311	480,556	△ 48,245
仮受金	4,995,667	6,478,844	△ 1,483,177
未払法人税等	70,000	70,000	0
流動負債合計	30,378,807	32,057,952	△ 1,679,145
2. 固定負債			
退職給付引当金	8,517,697	7,777,080	740,617
固定負債合計	8,517,697	7,777,080	740,617
負債合計	38,896,504	39,835,032	△ 938,528
III 正味財産の部			
一般正味財産	205,968,791	192,508,157	13,460,634
(うち特定資産への充当額)	(21,000,000)	(21,000,000)	(0)
正味財産合計	205,968,791	192,508,157	13,460,634
負債及び正味財産合計	244,865,295	232,343,189	12,522,106

貸借対照表内訳表
平成26年12月31日現在

(単位：円)

科 目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	内部取引消去	合 計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	2,332,667	2,500,000	196,929,923		201,762,590
未収会費			2,122,000		2,122,000
未収金			3,293,684		3,293,684
前払金			551,749		551,749
立替金			68,808		68,808
仮払金			4,832,667	4,832,667	0
流動資産合計	2,332,667	2,500,000	207,798,831	4,832,667	207,798,831
2. 固定資産					
(1) 特定資産					
退職給付引当資産	6,221,060	208,785	2,087,852		8,517,697
定期預金			21,000,000		21,000,000
特定資産合計	6,221,060	208,785	23,087,852	0	29,517,697
(2) その他固定資産					
電話加入権	76,264	25,205	51,631		153,100
敷 金			63,000		63,000
保証金			2,500,000		2,500,000
その他固定資産合計	76,264	25,205	2,614,631	0	2,716,100
固定資産合計	6,297,324	233,990	25,702,483	0	32,233,797
資産合計	8,629,991	2,733,990	233,501,314	4,832,667	240,032,628
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金			1,896,829		1,896,829
前受会費			22,984,000		22,984,000
預り金			432,311		432,311
仮受金	2,332,667	2,500,000	163,000	4,832,667	163,000
未払法人税等			70,000		70,000
流動負債合計	2,332,667	2,500,000	25,546,140	4,832,667	25,546,140
2. 固定負債					
退職給付引当金	6,221,060	208,785	2,087,852		8,517,697
固定負債合計	6,221,060	208,785	2,087,852	0	8,517,697
負債合計	8,553,727	2,708,785	27,633,992	4,832,667	34,063,837
会計区分間振替勘定					
会計区分間振替勘定	76,264	25,205	△ 101,469		0
会計区分間振替勘定合計	76,264	25,205	△ 101,469	0	0
III 正味財産の部					
一般正味財産	0	0	205,968,791	0	205,968,791
正味財産合計	0	0	205,968,791	0	205,968,791
負債及び正味財産合計	8,629,991	2,733,990	233,501,314	4,832,667	240,032,628

正味財産増減計算書

平成 26 年 1 月 1 日から平成 26 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益	5,392	6,137	△ 745
特定資産受取利息	5,392	6,137	△ 745
② 受取入金	473,000	481,000	△ 8,000
正会員受取入金	97,000	101,000	△ 4,000
学生会員受取入金	376,000	380,000	△ 4,000
③ 受取会費	41,576,000	42,054,000	△ 478,000
正会員受取会費	29,420,000	29,670,000	△ 250,000
学生会員受取会費	4,796,000	5,104,000	△ 308,000
賛助会員受取会費	7,360,000	7,280,000	80,000
④ 事業収益	44,859,212	47,683,269	△ 2,824,057
申込金事業収益	0	3,045,000	△ 3,045,000
参加費事業収益	16,299,000	11,504,000	4,795,000
懇親会参加費事業収益	2,760,000	2,182,000	578,000
展示料事業収益	3,130,000	3,960,000	△ 830,000
講演概要集広告料事業収益	360,000	340,000	20,000
セミナー参加費事業収益	3,763,500	2,730,300	1,033,200
会誌掲載料事業収益	11,114,865	16,972,725	△ 5,857,860
会誌広告料事業収益	3,640,384	3,385,070	255,314
会誌頒布事業収益	1,705,263	1,723,260	△ 17,997
編集料事業収益	2,086,200	1,840,914	245,286
⑤ 受取補助金等	300,000	0	300,000
受取地方公共団体助成金	300,000	0	300,000
⑥ 受取寄付金	24,000	0	24,000
受取寄付金	24,000	0	24,000
⑦ 雑収益	13,231,815	2,161,848	11,069,967
受取利息	33,330	40,063	△ 6,733
雑収益	13,198,485	2,121,785	11,076,700
経常収益計	100,469,419	92,386,254	8,083,165
(2) 経常費用			
① 事業費	58,573,834	70,718,175	△ 12,144,341
給料手当	8,825,842	8,532,386	293,456
臨時雇賃金	1,894,402	5,836,860	△ 3,942,458
退職給付費用	554,238	456,368	97,870
福利厚生費	1,162,780	1,118,051	44,729
旅費交通費	1,658,551	1,485,399	173,152
通信運搬費	3,948,216	4,510,820	△ 562,604
消耗什器備品費	172,460	0	172,460
消耗品費	1,972,810	1,513,040	459,770
印刷製本費	18,691,506	20,107,787	△ 1,416,281
賃借料	383,883	598,499	△ 214,616
諸謝金	1,354,105	1,985,538	△ 631,433
租税公課	689,700	575,435	114,265
支払負担金	6,503,855	9,738,812	△ 3,234,957
委託費	8,903,513	12,087,634	△ 3,184,121
雑費	1,857,973	2,171,546	△ 313,573
② 管理費	28,364,951	30,329,145	△ 1,964,194
給料手当	7,697,657	7,832,934	△ 135,277
臨時雇賃金	3,314,237	3,203,517	110,720
退職給付費用	186,379	92,290	94,089
福利厚生費	432,326	416,827	15,499
会議費	289,676	516,530	△ 226,854
旅費交通費	642,808	1,186,247	△ 543,439
通信運搬費	1,319,924	866,494	453,430
消耗品費	443,061	569,473	△ 126,412
印刷製本費	885,362	949,972	△ 64,610

光熱水料費	417,024	352,074	64,950
賃借料	7,115,160	6,650,121	465,039
保険料	6,000	6,000	0
支払手数料	409,379	469,088	△ 59,709
諸会費	314,760	336,060	△ 21,300
諸謝金	1,090,200	1,564,500	△ 474,300
租税公課	37,100	36,965	135
委託費	2,408,416	3,698,491	△ 1,290,075
雑費	1,355,482	1,581,562	△ 226,080
経常費用計	86,938,785	101,047,320	△ 14,108,535
評価損益等調整前当期経常増減額	13,530,634	△ 8,661,066	22,191,700
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	13,530,634	△ 8,661,066	22,191,700
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	13,530,634	△ 8,661,066	22,191,700
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	13,460,634	△ 8,731,066	22,191,700
一般正味財産期首残高	192,508,157	201,239,223	△ 8,731,066
一般正味財産期末残高	205,968,791	192,508,157	13,460,634
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	205,968,791	192,508,157	13,460,634



正味財産増減計算書内訳表

平成26年1月1日から平成26年12月31日まで

No. 1 (単位：円)

科 目	実 施 事 業 等 会 計							小計 (A)
	継1 シンポジウム	継2 学会誌	継3 欧文誌	継4 調査・研究	継5 表彰	継6 国際	共通	
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息								
受取入金	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取入金								
学生会員受取入金								
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取会費								
学生会員受取会費								
賛助会員受取会費								
事業収益	0	16,460,512	2,086,200	0	0	0	0	18,546,712
申込金事業収益								
参加費事業収益								
懇親会参加費事業収益								
展示料事業収益								
講習等集益								
セミナー参加費事業収益								
会誌掲載料事業収益		11,114,865						11,114,865
会誌広告料事業収益		3,640,384						3,640,384
会誌頒布事業収益		1,705,263						1,705,263
編集料事業収益			2,086,200					2,086,200
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金								
受取地方公共団体補助金								
受取地方公共団体助成金								
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金								
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0
受取利息								
雑収益								
経常収益計	0	16,460,512	2,086,200	0	0	0	0	18,546,712
(2) 経常費用								
事業費	388,075	27,039,077	3,323,064	1,037,155	6,643,614	1,513,560	0	39,944,545
給料手当		4,672,316			3,563,671			8,235,987
臨時雇賃金	85,250	32,272		88,000	584,130			789,652
退職給付費用		312,925			222,675			535,600
福利厚生費		663,342			456,911			1,120,253
旅費交通費	50,058	214,970	106,042	107,380	19,816			498,266
通信運搬費		3,667,248		14,553	88,572	26,021		3,796,394
消耗什器備品費								
消耗品費	155,417	4,725	4,702	58,429	21,678			244,951
印刷製本費		15,172,881		48,230				15,221,111
賃借料				172,140				172,140
諸謝金	90,000	63,000		270,819				423,819
租税公課		430,200	4,000					434,200
支払負担金	7,350			244,961		1,435,554		1,687,865
委託費		1,778,198	3,208,320					4,986,518
雑費		27,000		32,643	1,686,161	51,985		1,797,789
管理費	0	0	0	0	0	0	0	0
給料手当								
臨時雇賃金								
退職給付費用								
福利厚生費								
会議費								

旅費交通費								
通信運搬費								
消耗什器備品費								
消耗品費								
印刷製本費								
光熱水料費								
賃借料								
保険料								
支払手数料								
諸会費								
諸謝金								
租税公課								
委託費								
雑費								
経常費用計	388,075	27,039,077	3,323,064	1,037,155	6,643,614	1,513,560	0	39,944,545
評価損益等調整前 当期経常増減額	-388,075	-10,578,565	-1,236,864	-1,037,155	-6,643,614	-1,513,560	0	-21,397,833
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-388,075	-10,578,565	-1,236,864	-1,037,155	-6,643,614	-1,513,560	0	-21,397,833
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	388,075	10,578,565	1,236,864	1,037,155	6,643,614	1,513,560	0	21,397,833
税引前当期一般 正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税、住民税 及び事業税								
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
II 指定正味財産増減の部								
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0

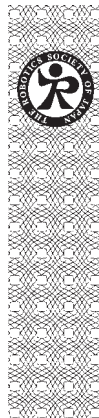
正味財産増減計算書内訳表

平成 26 年 1 月 1 日から平成 26 年 12 月 31 日まで

No. 2 (単位：円)

科 目	その他会計				法人 会計 (C)	内部取 引消去	合計 (A) + (B) + (C)
	他 1 学術 講演会	他 2 講習会	共通	小計 (B)			
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
特定資産運用益	0	0	0	0	5,392	0	5,392
特定資産受取利息					5,392		5,392
受取入金	0	0	0	0	473,000	0	473,000
正会員受取入金					97,000		97,000
学生会員受取入金					376,000		376,000
受取会費	0	0	0	0	41,576,000	0	41,576,000
正会員受取会費					29,420,000		29,420,000
学生会員受取会費					4,796,000		4,796,000
賛助会員受取会費					7,360,000		7,360,000
事業収益	22,549,000	3,763,500	0	26,312,500	0	0	44,859,212
申込金事業収益							
参加費事業収益	16,299,000			16,299,000			16,299,000
懇親会参加費事業収益	2,760,000			2,760,000			2,760,000
展示料事業収益	3,130,000			3,130,000			3,130,000
講演既集広 告料事業収益	360,000			360,000			360,000
セミナー参加費事業収益		3,763,500		3,763,500			3,763,500
会誌掲載料事業収益							11,114,865
会誌広告料事業収益							3,640,384
会誌頒布事業収益							1,705,263
編集料事業収益							2,086,200
受取補助金等	300,000	0	0	300,000	0	0	300,000
受取国庫補助金							
受取地方公共団体補助金							
受取地方公共団体助成金	300,000			300,000			300,000
受取寄付金	0	0	0	0	24,000	0	24,000
受取寄付金					24,000		24,000
雑収益	0	0	0	0	13,231,815	0	13,231,815
受取利息					33,330		33,330
雑収益					13,198,485		13,198,485
経常収益計	22,849,000	3,763,500	0	26,612,500	53,310,207	0	100,469,419
(2) 経常費用							
事業費	15,496,164	3,133,125	0	18,629,289	0	0	58,573,834
給料手当	589,855			589,855			8,825,842
臨時雇賃金	944,750	160,000		1,104,750			1,894,402
退職給付費用	18,638			18,638			554,238
福利厚生費	42,527			42,527			1,162,780
旅費交通費	593,258	567,027		1,160,285			1,658,551
通信運搬費	126,513	25,309		151,822			3,948,216
消耗什器備品費		172,460		172,460			172,460
消耗品費	607,563	1,120,296		1,727,859			1,972,810
印刷製本費	3,412,343	58,052		3,470,395			18,691,506
賃借料	71,193	140,530		211,743			383,883
諸謝金	167,655	763,231		930,886			1,354,105
租税公課	193,700	61,800		255,500			689,700
支払負担金	4,796,040	19,950		4,815,990			6,503,855
委託費	3,901,245	15,750		3,916,995			8,903,513
雑費	31,484	28,700		60,184			1,857,973
管理費	0	0	0	0	28,364,951	0	28,364,951
給料手当					7,697,657		7,697,657
臨時雇賃金					3,314,237		3,314,237
退職給付費用					186,379		186,379
福利厚生費					432,326		432,326

会議費							289,676	289,676
旅費交通費							642,808	642,808
通信運搬費							1,319,924	1,319,924
消耗什器備品費								
消耗品費							443,061	443,061
印刷製本費							885,362	885,362
光熱水料費							417,024	417,024
賃借料							7,115,160	7,115,160
保険料							6,000	6,000
支払手数料							409,379	409,379
諸会費							314,760	314,760
諸謝金							1,090,200	1,090,200
租税公課							37,100	37,100
委託費							2,408,416	2,408,416
雑費							1,355,482	1,355,482
経常費用計	15,496,164	3,133,125	0	18,629,289			28,364,951	86,938,785
評価損益等調整額	7,352,836	630,375	0	7,983,211			26,945,256	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	7,352,836	630,375	0	7,983,211			26,945,256	0
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	-7,352,836	-630,375	0	-7,983,211			-13,414,622	0
税引前当期一般 正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	13,530,634	0
法人税・住民税 及び事業税							70,000	70,000
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	13,460,634	0
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	192,508,157	192,508,157
一般正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	205,968,791	205,968,791
II 指定正味財産増減の部								
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	205,968,791	205,968,791



財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

退職給付引当金は、期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっている。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特 定 資 産				
退職給付引当資産	7,777,080	740,617	0	8,517,697
定期預金	21,000,000	0	0	21,000,000
合 計	28,777,080	740,617	0	29,517,697

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特 定 資 産				
退職給付引当資産	8,517,697	—	(0)	(8,517,697)
定期預金	21,000,000	(0)	(21,000,000)	—
合 計	29,517,697	(0)	(21,000,000)	(8,517,697)

4. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上 の記載区分
助成金						
地方公共団体助成金	福岡市	0	300,000	300,000	0	
合 計		0	300,000	300,000	0	

附 属 明 細 書

1. 特定資産の明細

特定資産の明細については、「財務諸表に対する注記」の「2. 特定資産の増減額及びその残高」に記載のとおりである。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期 増加額	当期減少額		期末残高
			使用目的	その他	
退職給付引当金	7,777,080	740,617	0	0	8,517,697

お 知 ら せ

財 産 目 録

平成 26 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金 手許有高	5,027,155	
普通預金 三菱東京 UFJ 銀行本店	17,247,899	
〃 みずほ銀行本郷支店	18,228,336	
〃 みずほ銀行本郷支店	2,736,175	
〃 りそな銀行本郷支店	6,678,425	
〃 三井住友銀行小石川支店	11,247,697	
定期預金 三井住友銀行小石川支店	55,251,056	
定期預金 三菱 UFJ 信託銀行本店	60,093,598	
定期預金 みずほ銀行本郷支店	18,058,128	
振替口座 ゆうちょ銀行	6,196,968	
通常貯金 ゆうちょ銀行	997,153	
未収会費 平成 26 年度会費 305 名, 1 口	2,122,000	
未収金 学会誌投稿料・広告料他	3,293,684	
前払金 平成 27 年 1 月分事務所家賃他	551,749	
立替金 日本ロボティクスシンポジウム WEB サーバ費用他	68,808	
流動資産合計		207,798,831
2 固定資産		
(1) 特定資産		
退職給付引当資産(普通預金) 三菱東京 UFJ 銀行春日町支店	8,517,697	
定期預金 三菱東京 UFJ 銀行本店	21,000,000	
特定資産合計		29,517,697
(2) その他固定資産		
電話加入権 2 本	153,100	
敷金 賃貸借契約敷金	63,000	
保証金 賃貸借契約保証金	2,500,000	
その他固定資産合計		2,716,100
固定資産合計		32,233,797
資産合計		240,032,628
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金 人材派遣費 12 月分	259,038	
12 月分給与(細田分)	500,000	
封入・郵送費(日本ロボット学会誌 32 - 10)	256,992	
交通費(理事会他)	197,755	
代議員選挙投票用紙	243,622	
コピー機使用料他	439,422	
前受会費 会費前受分	22,984,000	
預り金 源泉所得税	56,751	
〃 住民税	14,200	
〃 社会保険料	361,360	
仮受金 会費誤入金分他	163,000	
未払法人税等 平成 26 年分法人住民税	70,000	
流動負債合計		25,546,140
2 固定負債		
退職給付引当金 退職給付分	8,517,697	
固定負債合計		8,517,697
負債合計		34,063,837
正味財産		205,968,791



監 査 報 告

私たち監事は、平成 26 年 1 月 1 日から平成 26 年 12 月 31 日までの第三期事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表等（貸借対照表（内訳表を含む）、正味財産増減計算書（内訳表を含む）、財務諸表に対する注記）及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 財務諸表等及びその附属明細書の監査結果

財務諸表等及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

平成 27 年 2 月 20 日
一般社団法人日本ロボット学会

監 事 油田 信一 ㊟
監 事 平井 成興 ㊟

【基本方針】

日本におけるロボット関連技術の科学・工学としての学術面での探究を行い、さらにその成果を社会実装に結びつける活動、あるいはロボット産業の競争力強化活動を通じて、ロボットの社会価値を高めることを目標とする。

【背景】

近年のロボット技術強化に関連する政策の発動、ロボット産業の好調など、産業用ロボット、サービスロボットのいずれにとっても良好な環境となっている。一方で東日本大震災に端を発する防災ロボットへの取り組み強化や、製造業の国際競争激化に伴うロボットによる生産高度化へのチャレンジなど、単なる期待ではなく実際の成果が要望される状況でもある。中期的にはこれらの要望に直接的に応えつつ、長期的には産学の発展に持続的に寄与しうる活動を模索する必要がある。

また、一般社団法人としての学会運営においては、会員拡大などの収支改善活動、業務効率化のための有形無形の業務インフラの整備など、学会の基礎体力向上活動は恒常的に実施する必要がある。

【2015 年度重点項目と目的】

- ・産学連携の強化：ロボットの社会実装の促進と産業競争力の維持強化
- ・国際発信力の強化：技術と産業のグローバル化時代におけるリーダーシップの発揮
- ・工学教育への貢献：日本国民全体の産業技術力の向上

公益目的支出計画実施報告書に関する監査報告

私たち監事は、平成 26 年 1 月 1 日から平成 26 年 12 月 31 日までの第三期事業年度の公益目的支出計画実施報告書について監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

会計帳簿又はこれに関する資料、公益目的支出計画に関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました。

2. 監査の結果

公益目的支出計画実施報告書は、法令等に従い、適切に作成されているものと認めます。

平成 27 年 2 月 20 日
一般社団法人日本ロボット学会

監 事 油田 信一 ㊟
監 事 平井 成興 ㊟

【報告資料 1】

平成 27 年度 事業計画

(自 平成 27 年 1 月 1 日 至 平成 27 年 12 月 31 日)

I. シンポジウム (継続事業 1) [担当: 事業理事]

1. ロボット教育セミナー

第 3 回ロボット教育セミナー「子供向けからくり教室 (仮)」

期日: 2015 年 7 月 (予定)

オーガナイザ: 現在調整中

2. オープンフォーラム

第 33 回学術講演会 (東京電機大学, 2015 年 9 月 3 日~5 日) にて, オープンフォーラム (無料・一般公開) を企画予定.

II. 学会誌 (継続事業 2) [担当: 学会誌理事]

第 33 巻 1 号より 10 号を, 1 月, 3 月, 4 月, 5 月, 6 月, 7 月, 9 月, 10 月, 11 月, 12 月に刊行し, 会員に配布する. 各号の特集テーマは以下のものを予定している.

第 33 巻 1 号 水圏における生物模倣型移動ロボット (仮)

第 33 巻 2 号 データサイエンス研究のロボティクス応用に向けて (仮)

第 33 巻 3 号 ロボット教育論文特集号

第 33 巻 4 号 今更聞けないロボットの基礎と未解決問題 (仮)

第 33 巻 5 号 製造業用ロボット (仮)

第 33 巻 6 号 重機のヒューマンインタフェース技術 (仮)

第 33 巻 7 号 第 32 回日本ロボット学会学術講演会論文特集号

第 33 巻 8 号 モビリティロボットの開発と実証実験 (仮)

第 33 巻 9 号 次世代アクチュエータが描く未来像 (仮)

第 33 巻 10 号 ロボットのための地図表現 (仮)

前年度に引き続き, 魅力的な特集号の企画などについて取り組む. また, 学術講演会論文特集号に加え, 特定テーマで企画した論文特集号を企画する. さらに, 論文と解説記事を融合した総合特集として, 「製造業向けロボット総合特集号」の発行を予定している. 一般記事に関しては, 会議報告, コラム記事やロボット分野の著名な方とのインタビュー記事などの掲載を継続して行うとともに, 新たにリレー解説や講座なども検討する. 論文投稿の減少改善策としては, 2014 年 4 月から導入された新たな査読システムの改革が投稿数の増加, 採択率の増加につながったかどうかについて慎重に検討を行う.

広告に関しては, 大変厳しい状況ではあるが, 収入目標を 400 万円と設定し, 特集に関連した企業広告の獲得など目標達成に向けた具体的な取り組みを行う.

中期的ビジョンとしては, 和文 (論文) 誌のあり方について, 学会の発展を優先して改善策を検討して行く. たとえば, 教育論文, 企業論文, 解説論文, アイデア論文などで新しい領域を開拓し, ロボット研究のすそ野を広げて行く. 論文の完成度を求めると同時に, 平易で可読性の高い論文や知的刺激に満ちた論文についても積極的に開拓する. 一方, 和文誌と欧文誌との融合法としては, 第 32 回日本ロボット学会学術講演会にて実施したオープンフォーラム『日本ロボット学会論文誌 (和文誌) の改革~査読方針, 査読手順~』において, 和文論文を翻訳し, 欧文誌に掲載することについても提案され, 多くの方々から賛成を得られている. 今後, 学会発行誌構想検討委員会においても, 議論を重ねていきたい. 長期的ビジョンとしては, 学会誌を和文 (論文) 誌と切り離しマガジン化, 和文 (論文) 誌はオープンジャーナル化, 学会誌も和文 (論文) 誌も英語をメインの言語媒体として, アジアのロボット研究者を取り込んでいく, など思い切った改革の可能性についても合わせて議論を開始する.

III. 欧文誌 (継続事業 3) [担当: 欧文誌理事]

1. 欧文誌 (Advanced Robotics) の発行計画

下記のとおり, 2015 年度においては Vol. 29 を年 24 号発行することを計画している.

Vol.No.	Month	Title
29/1, 2	Jan	Cutting Edge of Robotics in Japan 2015(1), Regular Issue
29/3, 4	Feb	Disaster Response Robotics(2), Regular Issue

29/5, 6	Mar	Humanoid Robotics(1), (2)
29/7, 8	Apr	Cutting Edge of Robotics in Japan 2015(2), Regular Issue
29/9, 10	May	Regular Issue
29/11, 12	Jun	Regular Issue
29/13, 14	Jul	Continuum Robots and Manipulation, Regular Issue
29/15, 16	Aug	Regular Issue
29/17, 18	Sep	Regular Issue
29/19, 20	Oct	Regular Issue
29/21, 22	Nov	Novel Trends in Robotic Sensor Skins(1), (2)
29/23, 24	Dec	Regular Issue

2. 編集体制

2015 年度は, 新井史人編集長の下, シニアエディター 4 名および 2014 年度に定員を追加した 40 名の欧文誌委員会メンバーを中心に, 査読小委員会, 国際編集委員, アドバイザリー委員会のメンバーの協力を得ながら, 欧文誌 Advanced Robotics の国際的認知度向上, さらに日本ロボット学会と日本のロボット分野全体の国際的地位向上に貢献していく.

3. 欧文誌の内容向上と購読数増に向けて

2014 年度から年間 24 号としたことで, 一般論文の査読・出版サイクルに大幅な改善が図られているが, 今後も採否決定までの期間 90 日を目標に出版を行っていく. 一般論文の投稿数を見ながら積極かつ戦略的な特集号企画を行い, 国際的な認知度のさらなる向上, また引用の多い論文数件を Open Access 可能とする等を実施し掲載論文の質の向上を図り, 昨年度上昇した Citation Index の評価 (インパクトファクター) の更なる向上を目指す. さらに, 国際貢献の意味も含め, 国内外からの投稿数をさらに増大させていくための施策として, 投稿料無料を堅持する.

4. 国際化に向けての活動

主要な国際会議 IROS2015 に合わせて国際編集委員会を開催し, 海外委員による特集号企画などを通して, 国際的認知度を高める努力を行っていく. また国際貢献のために, ロボット学会の外国人会員の増加, 日本の優れた研究の世界への発信などを引き続き積極的に進めていく. また, 国際委員会の活動に協力し, 他学会との協体制強化, パンフレットの国際会議場などでの配布, AR 宣伝のためのポスターの制作と配布, ウェブの英語コンテンツ充実, 等を実施する.

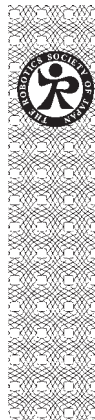
IV. 調査・研究 (継続事業 4) [担当: 企画理事]

1. 調査・研究専門委員会活動

以下の調査研究委員会, 研究専門委員会による活動を行う.

a. 研究専門委員会

委員会名	委員長	発 足	継 続	種別
開かれた知能研究専門委員会	下田真吾	2014 年 9 月	—	I 種
インテリジェントホームロボティクス研究専門委員会	岡田浩之	2014 年 8 月	—	II 種
生活創政支援ロボティクス研究会	小笠原司	2013 年 5 月	—	II 種
安心ロボティクス研究専門委員会	新井健生	2012 年 4 月	2014 年 4 月	I 種
データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012 年 4 月	2014 年 4 月	I 種
ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010 年 3 月	2014 年 3 月	I 種
RT 機能安全研究専門委員会	山田陽滋	2009 年 4 月	2013 年 4 月	I 種
関西ロボット系若手研究者ネットワーク研究専門委員会	池田篤俊	2009 年 4 月	2013 年 4 月	I 種
ヒューロビント研究専門委員会	松下光次郎	2009 年 4 月	2013 年 4 月	I 種



ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	山本元司	2008年4月	2014年4月	I種
北海道ロボット技術研究専門委員会	近野 敦	2008年4月	2014年4月	I種
カー・ロボティクス研究専門委員会	大日方五郎	2008年4月	2014年4月	I種
ロボティクスにおける空間の知能化及び構造化に関する研究専門委員会	新妻実保子	2007年1月	2015年1月(予定)	II種

b. 調査研究委員会

委員会名	委員長	発 足
廃炉に向けたロボットの調査研究と社会貢献に関する研究会	大道武生	2015年1月
産学連携委員会	小平紀生	2013年5月
広域災害対応に関する技術基盤調査研究委員会	浅間 一	2013年1月

c. 技術・カテゴリ別委員会

委員会名	委員長	発 足
ロボット教育事業委員会	琴坂信哉	2015年4月
建設ロボット委員会	栗栖正充	2013年10月

V. 表彰(継続事業5) [担当:企画理事]

1. 表彰

第33回学術講演会において学会誌論文賞, Advanced Robotics Best Paper Award, 実用化技術賞, 研究奨励賞, ロボティクスシンポジウム研究奨励賞, 功労賞およびロボット活用社会貢献賞の授賞を行う。また、本年度以降もFA財団の論文賞への候補論文の推薦、財団法人東レ科学振興会の東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦を行う。学会員やロボット分野の発展にとって有益と思われる、その他の外部団体からの各賞の推薦依頼についても積極的に対応していく。

VI. 国際(継続事業6) [担当:国際理事]

1. 学術講演会における国際セッションの有料化

第33回日本ロボット学会学術講演会において、OS国際セッションを組織する。前年度同様に、参加登録費を課す。ただし、登壇資格は問わない。

2. 国際交流活動

- (1) ARSU サミット会議の継続的な開催(第10回)
- (2) アジアロボットサミットの合意事項の推進
 - ・若手研究者ネットワーク
 - ・ロボット教育プログラムの確立とその標準化

3. 国際会議関連

本会にかかわる国際会議の共催/協賛および下記共催会議の運営への寄与とステアリング会議への代表の派遣を行う。

- ・RO-MAN2015 日程: 2015年8月31日~9月3日, 会場: 神戸, 日本
 - ・IROS2015 日程: 2015年9月28日~10月3日, 会場: ハンブルグ, ドイツ
- RO-MAN2015では学際的研究を対象とした賞のスポンサーとなる。IROS2015では、参加者に向けて企業がプレゼンを行うRSJ Power Lunchを実施する。

4. その他

- (1) 日本ロボット学会の国際化に向けた取組みの実施
 - ・対アジア外交における戦略の立案(協調と競争のバランス付け)
 - ・IROS, RO-MAN等の国際会議での日本ロボット学会の広

報

・英語による広報活動の展開(HP,パンフレット)

VII. 学術講演会(その他事業1) [担当:事業理事]

1. 学術講演会・シンポジウム等

(1) 第33回学術講演会

期 日: 2015年9月3日(木)~5日(土)
 会 場: 東京電機大学(東京千住キャンパス)
 実行委員長: 石川 潤(東京電機大学)
 プログラム委員長: 前田雄介(横浜国立大学)

VIII. 講習会(その他事業2) [担当:事業理事]

1. ロボット工学セミナー開講予定

(1) 第90回ロボット工学セミナー「ロボットビジョンのための画像処理技術」

期 日: 2015年5月(予定)
 オーガナイザ: 佐川立昌(産総研)

(2) 第91回ロボット工学セミナー「ロボットの動かし方2015~自律移動可能な移動ロボットの開発実習~」

期 日: 2015年6月(予定)
 オーガナイザ: 大原賢一(名城大学), 佐々木毅(芝浦工大)

(3) 第92回ロボット工学セミナー「UAV飛行の原理と応用最前線」

期 日: 2015年6月(予定)

オーガナイザ: 田崎 豪(東芝)

(4) 第93回ロボット工学セミナー「身体と環境の経時的な相互作用とデータ構造」

期 日: 2015年7月(予定)

オーガナイザ: 増山岳人(中央大学)

(5) 第94回ロボット工学セミナー「ロボット用オープンソースソフトウェアとその実用例」

期 日: 2015年9月(予定)

オーガナイザ: 森谷俊洋(オムロン)

(6) 第95回ロボット工学セミナー「数値モデルとロボット」

期 日: 2015年10月(予定)

オーガナイザ: 山岡久俊(富士通)

(7) 第96回ロボット工学セミナー「理学療法とハプティクス」

期 日: 2015年11月(予定)

オーガナイザ: 岡本正吾(名古屋大学)

2. 共催・協賛等

本会に関連する国内行事の共催・協賛・後援について審査を行う。

国内共催事業(予定を含む):

1) 第20回ロボティクスシンポジウム

期 日: 2015年3月15日(日)~16日(月)

会 場: 軽井沢プリンスホテルウエスト(長野県北佐久郡軽井沢町)

実行委員長: 浅間 一(東京大)

プログラム委員長: 梅田和昇(中央大)

現地実行委員長: 河村 隆(信州大)

2) ロボカップジャパンオープン2015

期 日: 未定

開 催 地: 未定

3) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル2015

期 日: 未定

開 催 地: 未定

4) 第15回レスキューロボットコンテスト

期 日: 2015年8月8日(土)・9日(日)

開 催 地: 神戸サンボーホール

IX. 法人処理 [担当:庶務理事]

1. 第5回定時総会

会 期: 平成27年3月20日

会 場: 本郷瀬川ビル

2. 委員会活動

下記の委員会を開催する。

委員会名	委員長 (1月～3月)	委員長 (3月～12月予定)
会誌編集委員会	田中一男	王 碩玉
欧文誌委員会	尾形哲也	倉林大輔
事業計画委員会	尾崎功一	小林英津子
国際委員会	前田雄介	平井慎一
研究協議会	大隅 久	次期副会長
第33回学術講演会実行委員会	石川 潤	石川 潤
表彰委員会	高西淳夫	次期副会長
第29回学会誌論文賞選考小委員会	大隅 久	次期副会長
第3回 Advanced Robotics Best Paper Award 選考小委員会	大隅 久	次期副会長
第20回実用化技術賞選考小委員会	高西淳夫	次期副会長
第8回功労賞選考小委員会	高西淳夫	次期副会長
第7回ロボット活用社会貢献賞選考小委員会	大隅 久	次期副会長
第30回研究奨励賞選考小委員会	高西淳夫	次期副会長
第5回ロボティクスシンポジウム研究奨励賞選考小委員会	高西淳夫	次期副会長
外部表彰選考小委員会	大隅 久	次期副会長
体制整備委員会	小平紀生	次期会長
アドバイザーボード	小平紀生	次期会長
次世代構想委員会	未定	未定
会員5000名拡大計画委員会	高西淳夫	次期副会長
コンプライアンス委員会	小平紀生	次期会長
情報システム管理委員会	高西淳夫	次期副会長
学術講演会管理推進委員会	大隅 久	次期副会長
学会発行誌構想検討委員会	高西淳夫	次期副会長
情報発信企画委員会	大隅 久	次期副会長
ロボット研究開発アーカイブ実行委員会	高西淳夫	次期副会長

3. 役員の選出

平成27年度の理事・監事を選出する。

4. フェロー、名誉会員の選任

フェロー、名誉会員の推薦を行い選任する。

5. 学会の基盤強化

新規委員会体制の下に、会員の拡大、論文発表の活性化を目指し、広報活動、産業貢献・異業種連携活動の強化、学会誌の充実を通して、学会の知名度向上をはかる。また、非専門家が入会しやすいしくみの構築や認知活動、高齢者層会員、学生会員が会員継続したくなる価値の創出、若年層への啓発活動を継続実施する。

6. 学会サービスの向上

情報発信企画委員会、ロボット研究開発アーカイブ実行委員会にて、学会ホームページのコンテンツの充実、情報サービスの拡大を進め、会員サービスの質の向上を図るとともに、学会の社会的価値の向上をはかる。

7. 規約等の制定・整備

体制整備委員会、コンプライアンス委員会にて、学会運営の効率化・適正化、学会員の利便性向上に必要な規約等の制定・整備を適宜実施していく。

8. 将来検討

次世代構想委員会等の活動により、本学会の将来展開に向けた方針や制度等に関する検討およびその具体化に取り組む。

9. 事務局運営

体制整備委員会の指導の下、中長期的な視点に立って事務局体制について検討・整備する。

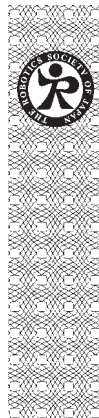
【報告資料2】

平成27年度予算計画

No.1

収支予算書(損益ベース)平成27年1月1日～平成27年12月31日(公益事業)

科 目	実施事業等会計						共通	小計 (A)
	継1 シンポジウム	継2 学会誌	継3 欧文誌	継4 調査・研究	継5 表彰	継6 国際		
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息								
受取入金金	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取入金金								
学生会員受取入金金								
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取会費								
学生会員受取会費								
賛助会員受取会費								
事業収益	0	23,500,000	2,100,000	0	0	0	0	25,600,000
申込金事業収益								
参加費事業収益								
懇話会参加費事業収益								
展示料事業収益								
書籍等集益								
セミナー参加費事業収益								
会誌掲載料事業収益		17,500,000						17,500,000
会誌広告料事業収益		4,000,000						4,000,000
会誌頒布事業収益		2,000,000						2,000,000
編集料事業収益			2,100,000					2,100,000
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金								
受取地方公共団体補助金								
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0
受取利息								
雑収益計	0	23,500,000	2,100,000	0	0	0	0	25,600,000
(2) 経常費用								
事業費	563,000	27,769,175	7,251,000	1,308,000	6,360,495	1,374,000	0	44,625,670
給料手当		4,880,125			3,758,695			8,638,820
臨時雇賃金	100,000	37,000		39,000				176,000
退職給付費用		314,500			222,000			536,500
福利厚生費		461,500			325,800			787,300
旅費交通費	47,000	353,000	174,000	15,000	93,000	350,000		1,032,000
通信運搬費	13,000	3,650,000	1,000	21,000	73,000	24,000		3,782,000
消耗什器備品費								
消耗品費	220,000	7,000	2,000	7,000	188,000			424,000
印刷製本費		15,400,000		77,000				15,477,000
賃借料	18,000			263,000		100,000		381,000
諸謝金	140,000	63,000		654,000				857,000
租税公課		430,000	4,000					434,000
支払負担金	25,000		3,733,000	181,000				3,939,000
委託費		2,020,000	3,247,000					5,267,000
雑費		153,000	90,000	51,000	1,700,000	900,000		2,894,000
管理費	0	0	0	0	0	0	0	0
給料手当								
臨時雇賃金								
退職給付費用								
福利厚生費								
会議費								
旅費交通費								



お知らせ

通信運搬費							0
消耗什器備品費							0
消耗品費							0
印刷製本費							0
光熱水料費							0
賃借料							0
保険料							0
支払手数料							0
諸会費							0
諸謝金							0
租税公課							0
委託費							0
雑費							0
経常費用計	563,000	27,769,175	7,251,000	1,308,000	6,360,495	1,374,000	44,625,670
当期経常増減額	-563,000	-4,269,175	-5,151,000	-1,308,000	-6,360,495	-1,374,000	-19,025,670
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-563,000	-4,269,175	-5,151,000	-1,308,000	-6,360,495	-1,374,000	-19,025,670
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用							
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	563,000	4,269,175	5,151,000	1,308,000	6,360,495	1,374,000	19,025,670
税引前当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
法人税、住民税及び事業税							
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0

No. 2

収支予算書(損益ベース)平成27年1月1日~平成27年12月31日(その他事業)

科 目	その他会計				法人会計 (C)	内部取引消去	合計 (A) + (B) + (C)
	他1 学術 講演会	他2 講習会	共通	小計(B)			
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
特定資産運用益	0	0	0	0	5,000	0	5,000
特定資産受取利息					5,000		5,000
受取入会金	0	0	0	0	500,000	0	500,000
正会員受取入会金					100,000		100,000
学生会員受取入会金					400,000		400,000
受取会費	0	0	0	0	41,988,000	0	41,988,000
正会員受取会費					29,540,000		29,540,000
学生会員受取会費					5,008,000		5,008,000
賛助会員受取会費					7,440,000		7,440,000
事業収益	22,450,000	2,415,000	0	24,865,000	0	0	50,465,000
申込金事業収益							
参加費事業収益	17,340,000			17,340,000			17,340,000
懇親会参加費事業収益	2,470,000			2,470,000			2,470,000
展示料事業収益	2,210,000			2,210,000			2,210,000
講義料事業収益	430,000			430,000			430,000
セミナー参加費事業収益		2,415,000		2,415,000			2,415,000
会誌掲載料事業収益							17,500,000
会誌広告料事業収益							4,000,000
会誌頒布事業収益							2,000,000
編集料事業収益							2,100,000
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金							
受取地方公共団体補助金							
雑収益	0	0	0	0	2,982,000	0	2,982,000

受取利息					33,000		33,000
雑収益					2,949,000		2,949,000
経常収益計	22,450,000	2,415,000	0	24,865,000	45,475,000	0	95,940,000
(2) 経常費用							
事業費	17,996,480	2,406,000	0	20,402,480	0	0	66,028,150
給料手当	630,830			630,830			9,269,650
臨時雇賃金	1,170,000	165,000		1,335,000			1,511,000
退職給付費用	18,500			18,500			555,000
福利厚生費	27,150			27,150			814,500
旅費交通費	300,000	402,000		702,000			1,734,000
通信運搬費	43,000			43,000			3,825,000
消耗什器備品費							
消耗品費	100,000	800,000		900,000			1,324,000
印刷製本費	3,770,000	59,000		3,829,000			19,306,000
賃借料	5,100,000	175,000		5,275,000			5,656,000
諸謝金	111,000	675,000		786,000			1,643,000
租税公課	194,000	62,000		256,000			690,000
支払負担金	5,151,000	24,000		5,175,000			9,114,000
委託費	1,381,000	16,000		1,397,000			6,664,000
雑費		28,000		28,000			
管理費	0	0	0	0	30,682,850	0	30,682,850
給料手当					8,253,350		8,253,350
臨時雇賃金					3,318,000		3,318,000
退職給付費用					185,000		185,000
福利厚生費					771,500		771,500
会議費					337,000		337,000
旅費交通費					942,000		942,000
通信運搬費					786,000		786,000
消耗什器備品費							
消耗品費					388,000		388,000
印刷製本費					906,000		906,000
光熱水料費					411,000		411,000
賃借料					7,058,000		7,058,000
保険料					6,000		6,000
支払手数料					430,000		430,000
諸会費					315,000		315,000
諸謝金					1,231,000		1,231,000
租税公課					37,000		37,000
委託費					3,971,000		3,971,000
雑費					1,327,000		1,327,000
経常費用計	17,996,480	2,406,000	0	20,402,480	30,682,850	0	95,711,000
当期経常増減額	4,453,520	9,000	0	4,462,520	14,792,150	0	229,000
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	4,453,520	9,000	0	4,462,520	14,792,150	0	229,000
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用							
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	-4,453,520	-9,000		-4,462,520	-14,563,150		
税引前当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	229,000	0	229,000
法人税、住民税及び事業税					70,000		70,000
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	159,000	0	159,000

【第3号議案】

平成27年度役員の内

日本ロボット学会定款第5章、役員選任規程および役員候補推薦規程に従い、下表右列の13名を平成27年度新役員として推挙したい。

任期	平成27年度役員		
	平成25年3月～ 平成27年3月	平成26年3月～ 平成28年3月	平成27年3月～ 平成29年3月
理事	小平紀生		高西淳夫
理事	高西淳夫		沢 俊裕
理事	大隅 久		吉見 卓
理事	岩城 敏		山本健次郎
理事	細田祐司	沢崎直之	細田祐司
理事	塩沢恵子	井上康之	奥田晴久
理事	小林 宏	石田勇一	久保田哲也
理事	田中一男	王 碩玉	橋本浩一
理事	尾形哲也	倉林大輔	平田泰久
理事	尾崎功一	小林英津子	和田一義
理事	倉爪 亮	石川 潤	妻木勇一
理事	前田雄介	平井慎一	岡田昌史
監事	油田信一	平井成興	小平紀生

